

ダイオキシンの調査はどのようにやるの？

キーワード

ダイオキシン類、土壌調査、焼却炉、廃棄物

知って得する

いろいろな猛毒性物質 *半数致死量：ねずみ(ラットやマウス)に与えたときに半数のねずみが死亡する量

天然物	半数致死量(ねずみ) $\mu\text{g}/\text{kg}$	人工物質
ボツリヌス菌毒素	10^{-9}	
破傷風菌毒素	10^{-8}	
スナギンチャクの毒	10^{-7}	
赤痢菌毒素	10^{-6}	ダイオキシン (2,3,7,8-TCDD)
フグ毒	10^{-5}	サリン
	10^{-4}	
	10^{-3}	
	10^{-2}	マスタードガス
ニコチン	10^{-1}	青酸カリ
カフェイン	1	DDT

(環境庁「ダイオキシンってなあに？」より)

ワンポイント解説

ダイオキシン類は、塩素を含む有機化合物のうち、ポリ塩化ジベンゾーパラージオキシン(PCDD)、ポリ塩化ジベンゾフラン(PCDF)、コプラナーポリ塩化ビフェニル(コプラナーPCB)の総称です。

土壌汚染対策法で定める特定有害物質ではありませんが、条例により、ダイオキシン類特措法の特定施設の廃止等において土壌調査の義務が生じる場合があります。

土対法の表層土壌調査では深さ50cmまでの土壌を採取しますが、ダイオキシン類は浸透しづらい性質があるので原則5cmまでの土壌を採取します。

ダイオキシン類の分析は結果が出るまで約3～4週間かかりますので、早めにご相談ください。